

感謝祈願詞

出口王仁三郎

靈界物語 第60卷第16章「祈言」より

感謝

至大地球の主宰に在坐して。一靈四魂、八力三元、世出燃、地成、弥、凝、足、諸、血、夜出の大元靈、天之御中主大神、靈系祖神高皇產靈大神、体系祖神神皇產靈大神の大稜威を以て、無限絶対無始無終に天地万有を創造賜ひ、神人をしてかかる至真至美至善之神國に安住せ玉はむがために、太陽太陽大地を造り、各自々々至粹至醇之魂力体を賦与玉ひ。また八百万天使を生成給ひて万物を愛護給ふ、その廣大無辺大恩恵を尊み敬び恐み恐みも白す。

掛巻も異き大地上の國を知召します、言靈の天照國は、千代万代に動く事無く變る事無く、修理固成給ひし、皇大神の敷坐す島の八十島は、天の壁立極み國の退立限り、青雲の棚引極み、白雲の墮居向伏限り、伊照透らす大稜威は、日の大御守と嬉しみ尊み、常夜照る天伝ふ月夜見神の神光は、夜の守と青人草を恵み撫て愛しみ賜ひ。殊更に嚴の御魂天勝國勝國之大祖國常立尊は、天地初発之時より独神成坐而隱身賜ひ。玉留魂の靈徳を以て、海月如す漂へる國土を修理固成て、大地球の水陸を分割し賜ひ。豊雲野尊は足魂の靈徳を以て植物を生じ、葦芽彦尊等は生魂の靈徳を以て動物を愛育て。大戸地、大戸辺、宇比地根、須比地根、生杖、角杖、面足、惶根の全力を以て。万有一切に賦与へ、天地の万靈をして、惟神の大道によらしめ賜ひ。神伊邪那岐尊、神伊邪那美尊は、天津神の神勅を畏み、天の瓊矛を採持ち。豊葦原の千五百秋の水火國を。浦安國と、惻愴に完全具足に修理固成し賜ひて。遠近の國の悉々、國魂の神を生み、産土の神を任せ賜ひて。青人草を親しく守り賜ふ。その大御恵を仰ぎ敬び喜び奉らくと白す。

現身の世の習慣として。枉津神の曲事に相交り、日に夜に罪惡汚濁に沈み。現界の制律に罪せられ。幽界にては神の政庁の御神制の随々、根の國底の國に墮行むとする蒼生の靈魂を隣み賜ひて。伊都の靈、美都の靈の大神は、綾に尊き豊葦原の瑞穂の國の真秀良場豈並る、青垣山籠れる下津岩根の高天原に、現世幽界の統治神として現れ給ひ。教親の命の手により口によりて、惟神の大本を講き明し。天の下四方の國を平けく安けく、豊けく治め給はむとして。日毎夜毎に漏る事無く遺る事無く。最懇切に

百姓万民を教へ諭し賜ふ。神直日、大直日の深き広き限り無き大御恵を。嬉しみ忝なみ、恐み恐みも稱辭竟へ奉らくと白す。

祈願

天地初発之時より。隱身賜ひし國の太祖大國常立大神の御前に白さく。天の下四方の國に生出し青人草等の身魂に。天津神より授け給へる直靈魂をして。益々光華明彩至善至直伊都能売魂と成さしめ賜へ。邂逅に過ちて枉津神のために汚し破らるる事なく。四魂五情の全き活動に由て、大御神の天業を仕へ奉るべく。忍耐勉強もつて尊き品位を保ち、玉の緒の生命長く。家門高く富榮えて、甘し天地の花と成り光と成り。大神の神子たる身の本能を發き揚しめ賜へ。仰ぎ願はくは、大御神の大御心に叶ひ奉りて、身にも心にも罪惡汚穢過失在らしめず。天授之至靈を守らせ給へ、凡百の事業をなすにも。大御神の恩頼を幸へ給ひて、善事正行には荒魂の勇みを振起し、倍々向進発展完成の域に立到らしめ給へ。朝な夕な神祇を敬ひ。誠の道に違ふ事無く、天地の御魂たる義理責任を全うし。普く世の人と親しみ交り、人欲のために争ふ事を恥らひ。和魂の親みに由て人々を惡まず、改言改過惡言暴語無く、善言美詞の神嘉言を以て、神人を和め。天地に代るの勲功を堅誓に常誓に建て。幸魂の愛深く。天地の間に生とし生ける万物を損ひ破る事無く。生成化育の大道を畏み、奇魂の智に由て。異端邪説の真理に狂へる事を覚悟べく。直日の御靈に由て正邪理非直曲を省み。以て真誠の信仰を励み、言靈の助によりて大神の御心を直覺り。鎮魂歸神の神術に由て村肝の心を練り鍛へしめ賜ひて。身に触る八十の汚穢も心に思ふ千々の迷も。祓ひに祓ひ、退ひに退ひ、須弥山の神山の静けが如く。五十鈴川の流の清きが如く。動く事無く變る事無く。息長く偉大く在らしめ賜ひ。世の長人、世の遠人と健全しく。親子夫婦同胞朋友相睦むつ。天の下公共のため、美はしき人の鏡として。太じき功績を顕はし、天地の神子と生れ出たるその本分を尽さしめ賜へ。総の感謝と祈願は千座の置戸を負て、玉垣の内津御國の秀津間の國の海中の杵嶋神嶋の無人島に神退ひに退はれ。天津罪、国津罪、許々多久の罪科を祓ひ給ひし、現世幽界の守神なる、國の御太祖國常立大神、豊雲野大神。亦た伊都の御魂美都の御魂の御名に幸へ給ひて聞食し、相宇豆那比給ひ。夜の守日の守に守幸へ給へと。鹿兒自物膝折伏せ宇自物頸根突抜て。恐み恐みも祈願奉らくと白す。